

「口腔内細菌カウンタ」を障害をもつ患者やご家族とのコミュニケーションに活用



畑下歯科医院
畑下 芳史 院長

保有台数	1台
都道府県	奈良県

ご経歴

平成8年3月 大阪歯科大学卒業
平成12年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究所 博士課程修了
平成12年4月 大阪歯科大学 講師(非常勤)
平成15年5月 畑下歯科医院 開院
平成18年4月 奈良県歯科医師会会立奈良歯科衛生士専門学校 理事
平成23年4月 同 常務理事
平成25年7月 同 専務理事
令和3年6月 同 副理事長
令和5年6月 奈良県歯科医師会 理事

*弊社から畑下芳史院長に依頼し、頂いたコメントを編集して掲載しています。

どんな患者を診察されていますか？

お子様からご年配の方、障がいのある方まで、患者はさまざまです。

外来診療だけでなく、寝たきりやお身体の不自由な方など、通院が困難な方のためにご自宅や施設、病院などに訪問して歯科治療を行っています。

障害を持つ患者の診断も行っているとのことですが、「口腔内細菌カウンタ」をどのように使用していますか？

当院に通う障害を持つ患者のほとんどは、保護者の意識も非常に高く、一生懸命お子さんのケアに取り組まれているので、口腔の状態も良好な方が多いです。

しかし、障害をもつ患者の保護者は、自分は子供に対して「正しいケアが行えているか」「ケアの効果が出ているのか」と、不安を感じている方も多くいらっしゃいます。

「口腔内細菌カウンタ」は、口腔内に付着している総菌数の測定結果を数値やフェイスマークで定量的に示すことができるため、日頃のケアの効果を伝えるためにも活用しています。

保護者に良い結果が出ていることをお伝えすると、いつも安心していただけます。

保護者だけではなく、訪問先の病院にて、障害を持つ患者の看護師にも「口腔内細菌カウンタ」の結果をお伝えしていますが、日々の口腔ケアに対するモチベーションアップにつながっていることも実感しています。



診察中の様子

ご高齢の方に対しては、「口腔内細菌カウンタ」をどのように使用していますか？

口腔内環境の悪い患者に対して検査を実施して検査結果をお伝えすることで、セルフケアのモチベーションアップにつなげています。

例えば高齢者の場合、舌を動かすのに苦戦している方の多くは舌が汚れがちです。しかし患者は、残存歯の歯磨きは頑張っている、舌や粘膜のケアにはあまり関心がなくケアが疎かになることが多いです。

この場合、舌や粘膜も口腔内の環境を整えるためにはとても大切であることを伝えながら「口腔内細菌カウンタ」の検査を行います。

本人はセルフケアで「歯は毎日磨いている」という自覚がありますが、舌の画像や「口腔内細菌カウンタ」の測定検査の結果をお見せしながら「舌は実際にこのくらい汚れていて、舌の菌はこれほどの数字で…」と数値を通じて指導することで、患者の意識が変わり、もっと口腔内を清潔にしたいというモチベーションアップにも役立っています。

「口腔内細菌カウンタ」の結果をお見せすることで、口腔衛生状態に課題がある患者の義歯交換を促したケースもあります。

該当の患者は、長期間使用している義歯が劣化していて作り直したほうが良いという状況。ただし、本人は慣れている義歯なので変えたくないという非協力的でした。

ある時「口の中の数値を測定器で見てみましょう」と提案し、「口腔内細菌カウンタ」で検査をすると、結果が一番悪い評価のレベル7に。結果を見て患者は「入れ歯は毎日きちんと洗っているのに・・・口の中はこんなに汚れているの?」とかなり驚いていました。

これをきっかけに義歯を新調し、現在は義歯の掃除もセルフケアも行っていただけになりました。

「口腔内細菌カウンタ」を使用するメリットは、どんなところにあると思いますか？

検査が簡単で結果が1分で出てくると、結果をフェイスマーク(笑顔(レベル1)～泣き顔(レベル7))でお伝えすることができる点です。

目の前で即結果が出るためその数字を通じて患者とコミュニケーションをとることができ、指導がしやすいと感じています。

フェイスマークで表示されるため、レベル6～7と菌数が多い患者に対しても「数値が高かったですね。お口のケアを頑張りましょうね」と、深刻にならずに話し合うことが出来ることもメリットに感じています。

